



～ありがとう これからも地域とともに～

兵庫丹波の森協会ニュース2022



兵庫県丹波地域において、平成元年(1989年)に「丹波の森構想」が策定され、森・畑・田・集落・河川などを含む地域全体を「丹波の森」とし、みんなが協力して、この環境を守り、次代に繋ごうとする取組が行われてきました。

構想の推進母体として設立された(公財)兵庫丹波の森協会では、県立4施設(丹波の森公苑、丹波年輪の里、ささやまの森公園、丹波並木道中央公園)を活動拠点として、丹波県民局、丹波篠山市、丹波市をはじめ、地域や市民活動団体と連携し、森づくり(地域づくり)活動を展開しています。令和4年(2022年)に実施しました主な取組を兵庫丹波の森協会ニュースとしてお知らせいたします。

⑨は新規事業、⑩は継続事業です。

トピックス

⑨ 縄文の森ユース躍動プロジェクト事業の開催

本プロジェクトでは、丹波地域における生物多様性の推進に向けて、丹波の森公苑において、縄文里山文化を体感できる縄文里山林の目標像(森林の再生ゾーニングや循環的な管理計画、活用方法など)の提案と実践を行うことを目的としており、県民局のシンボルプロジェクトに位置付けられています。具体的には、丹波の森の「植物」(森の再生と活用方法など)と「動物」(野生動物と人との共生方法など)を学ぶとともに、「縄文里山文化」への理解を深めることを目指しています。

今年度の「動物」では、「丹波の森ワイルドライフ講座」を4日間の合宿スタイルで開催しました。また「植物」については、氷上高校の課題研究との共同カリキュラムという形で、1年を通して取り組んでいます。

○開催期間:「動物」8月2日(火)～5日(金)

「植物」8月30日(火)、10月14日(金)あと1回予定

○会場:「動物」ユニトピアささやま他

「植物」丹波の森公苑、氷上高校隣接里山

○参加人数:20人



現地ヒアリングによる野生動物の生態調査



氷上高校隣接里山での植物調査

⑨ 昆虫リーダー育成研修会の開催

「めざせ!!昆虫リーダー ～丹波の昆虫リーダーは、キミたちだ!～」

里山の植物・昆虫・野生動物を調査することにより、生物多様性の方向性を探ることを目的に、その調査スタッフを養成するため、兵庫県立人と自然の博物館の協力のもとに昆虫を対象としたプログラムを行いました。

3日間のプログラムにおいて、午前中は丹波の森公苑の里山で昆虫採集をし、午後は昆虫図鑑を作ったり、昆虫の分類を学びました。

○開催日：7月16日（土）、8月13日（土）、10月1日（土）

各日 10時～15時

○場所：丹波の森公苑里山、多目的ルーム、セミナー室

○対象：小学3年生～6年生の児童及びその保護者

○講師：兵庫県立人と自然の博物館 主任研究員 八木剛氏

NPO 法人こどもとむしの会スタッフ

○参加人数：こども 20人、大人 20人 計40人



昆虫採集



昆虫の分類を学ぶ

❶ 丹波の森公苑 里山案内看板を設置

丹波の森公苑里山は、自然観察、散策などを目的に多くの方に利用されています。その参考としていただくため、里山に生息している生き物の看板を設置しました。

里山に生息している昆虫や動物、植物は、丹波の森公苑の魅力、生活創造活動の資源であり、その理解を深めてもらうことは、里山の再生、多様な生物が生息している自然環境の保全に関心を高めてもらうことにつながっていくと考えています。

なお、看板の制作は「国蝶オオムラサキの舞う里山づくり」に当苑とともに取り組んでいる「兵庫丹波オオムラサキの会」によるものです。



国蝶オオムラサキを育てるエノキ



オオムラサキのすむドングリの森



貴重な動植物&外来生物



丹波の森公苑里山の四季



生き物の鳴き声



丹波の森公苑の動物たち

⑨ 丹波の森公苑散策道（尾根コース）に木の銘板設置

丹波の森公苑里山は、入口付近が標高 134m、東頂上が最も高く 377m と高低差 243m となっています。この里山には、麓から中腹、尾根まで散策道がつくられており、ハイキングや自然観察、丹波縄文の森塾尾根歩きなどを目的に多くの方に利用されています。

丹波の森公苑里山の利用者が「この木、何の木？」と樹木に関心を抱きながら、里山の自然環境について学びきっかけとなる木の銘板（樹種名を記載したプレート）を散策道（尾根コース）に設置しました。

（8月）

なお、銘板には番号を付しており、その番号を確認することにより、尾根コースの位置票としての機能も持たせています。

木の銘板の概要

サ イ ズ：縦 120mm×横 200mm

材 質：スギ

設置数等：41 種類、92 枚

樹種名の調査と設置にあたっては、丹波自然友の会の協力をいただきました。

また、（公財）兵庫丹波の森協会が指定管理により運営している施設間連携の一環として、銘板の材質や仕上げの検討、カットについて、丹波年輪の里及び丹波並木道中央公園の協力を得ました。



木の銘板



尾根からの風景

❶ 丹波年輪の里 緑の中のコンサート開催!!【丹波年輪の里】

CSR 事業の役割を担っている丹波年輪の里では、その運営の基本方針に則り、今年度新たな事業として丹波年輪の里が持つ丹波の自然景観を舞台に「緑の中のコンサート」を開催し、自然と文化（音楽）と人をつなぐ役割づくりを展開して行くことにしています。

第1回目は、緑いっぱい自然あふれる屋外で、兵庫県立柏原高等学校吹奏楽部に出演いただき、演者と観客が一体となって音楽の楽しさを存分に味わっていただきました。

第2回目は、「クリスマスコンサート」と銘打って、木の温もりを感じる木の館ホールで、4人の演奏家による中世ルネサンスの木管楽器を演奏していただき、楽器の奏でる音色と包みこまれるような反響音との絶妙なハーモニーの心地よさを皆様に楽しんでいただきました。

〔1回目〕

○開催日：9月11日（土）

○開催場所：丹波年輪クラフト広場

○来場者：400人

〔2回目〕

○開催日：12月10日（土）

○開催場所：丹波年輪の里木の館ホール

○来場者：107人



9月11日（土）



12月10日（土）

❶ 丹波年輪の里 来苑者 700 万人達成!【丹波年輪の里】

1988 年 (昭和 63 年) 4 月に開苑した丹波年輪の里は、自然豊かな丹波の地において県下 10 番目の CSR 施設として誕生し、10 月 15 日 (土) 開苑 34 年で来苑者 700 万人を達成しました。

引き続き、文化・スポーツ・レクリエーションの地域拠点として来苑者の満足度を高めていきます。

[参考]

開 苑	1988 年 (昭和 63 年)	4 月
100 万人	1992 年 (平成 4 年)	10 月
200 万人	1999 年 (平成 9 年)	5 月
300 万人	2001 年 (平成 13 年)	8 月
400 万人	2005 年 (平成 17 年)	11 月
500 万人	2010 年 (平成 22 年)	6 月
600 万人	2016 年 (平成 28 年)	7 月
700 万人	2022 年 (令和 4 年)	10 月



700 万人達成記念セレモニー

❷ ささやまの森公園開園 20 周年記念式典の開催【ささやまの森公園】

ささやまの森公園は、平成 14 年に県下の「ふるさとの森公園」の 2 番目として、県民の参画と協働により里山の保全と創造を進め、交流やふれあいの場を提供するとともに人と自然が共生する豊かな里山づくりを推進することを目標に開園しました。

里山の保全と創造というコンセプトのもと、特に来園者が受講するプログラムは里山文化に関する内容を展開し、先人がこの里山で育んできた文化を学べるプログラムとして、好評を得ています。

11 月 6 日、ご来賓をはじめ関係各位のご出席を得て開園 20 周年記念式典を開催しました。式典ではボランティアスタッフ制作による故河合雅雄先生の木像除幕式、「森の学校」を受講している子どもたちのカルタ発表、里山文化授業を受講している兵庫県立篠山東雲高校生による取組の成果発表、吹奏楽団プリマベラと同高校吹奏学部による合同の祝賀演奏がありました。式典後にはパネルディスカッションによるスタッフ交流会も行いました。

今後も、さらに多くの皆様にご来園いただきたいと願っております。



開園 20 周年記念式典



故河合雅雄先生の木像除幕式

❶ ささやまの森公園開園 20 周年記念誌「森が学校」発行【ささやまの森公園】

開園 20 周年を迎えるにあたり、20 周年記念誌「森が学校」と公園の何気ない日常とプログラムを紹介した DVD を制作しました。

開園 20 年を迎え施設やプログラム活動などの充実にご尽力いただきました関係者、活動スタッフの皆様に感謝しつつ、今後更なる充実した事業運営を決意しました。

多くの方にご一読頂けるよう願っています。



20 周年記念誌「森が学校」制作

新 兵庫県立ささやまの森公園開園 20 周年記念物制作【ささやまの森公園】

開園 20 周年を記念して、初代丹波の森公苑長であり、初代ささやまの森公園運営協議会々長を務められた、故河合雅雄先生をモチーフにしたチェーンソーアートの木像を制作しました。木像を設置したのは「森が学校」の精神を忘れることなく後世に伝えていきたいとの思いと願いからです。また、河合先生が提唱されておりました「森遊びのすすめ」を実践するべく、子どもたちが森の中で創造力を活かして遊べ、傍らで大人たちが自然に癒される空間として「癒しの広場」を作りました。使い方自由の長さ約 50m のベンチを設置し輪投げ、けんけんぱ、モルックも併設しました。加えて、自然との共生を営んできた里山を思い、身近な自然素材の竹を使った「癒しの灯り・竹灯籠」を作成、里山の一日を表現しました。

これらの記念物を制作することにより、自然の大切さや里山の文化を守り伝えていく使命を実感できること、来園者にも感じていただけることを願っています。



故河合雅雄先生木像



癒しの広場



癒しの灯り・竹灯籠

新 「水源の森たんばささやま」 森開き式【ささやまの森公園】

兵庫県、コカ・コーラボトラーズジャパン株式会社、兵庫丹波の森協会の三者で結ばれた森林管理協定に基づき、本公園の森林を「水源の森たんばささやま」として、整備計画に基づいた人工林の間伐が行われています。

2019年に森開き式等の行事が、計画されていましたが、台風と新型コロナウイルスの影響で3年越しでの開催となりました。式典の後、コカ・コーラボトラーズジャパン明石工場の従業員ボランティアやその家族による希少野生植物の保護活動も行われました。

○開催日：11月21日（月）



森開き式の参加者



保護活動の事前説明

⑨ 恐竜化石をモチーフにした大型複合遊具が完成【丹波並木道中央公園】

丹波並木道中央公園の森林活動センター前ならびにあおぞら広場に恐竜化石をモチーフにした複合遊具が完成しました。

3月26日（土）には、丹波土木事務所による遊具のお披露日式が開催されました。完成した複合遊具は恐竜や化石をモチーフにした6歳～12歳を対象とした遊具で、恐竜や古生物の化石が発見されている公園にはぴったりの遊具です。

公園には、今まで小学生が遊べる遊具はローラーすべり台1基しかありませんでしたが、複合遊具の完成により、たくさん子どもたちが遊びに来るようになりました。森林活動センター前の複合遊具の隣には、2021年度に完成した動く恐竜模型もあり、休日はたくさんの家族でにぎわっています。



完成セレモニー



複合遊具（恐竜）



複合遊具（化石）

森林文化（地域づくり）の創造

丹波の地域づくりを担う人材養成、花と緑があふれる地域づくり、丹波の自然を守り育む里山づくりなどの取組を行うことにより、丹波の森構想の理念である「自然とともに生きる地域社会の実現」を進めました。

丹波の森大学を開講

「丹波の森構想」を実現するための学習の場として、個性豊かで誰もが幸せに暮らせる地域づくり・環境づくり、そしてそれを支える「もり（森・守・盛）びと」づくりなど、将来の丹波地域を創造するための講義と現地学習を交えた講座を開催しました。

学習の基本テーマを「森の恵み」とし、丹波の森を見直し、持続可能で魅力あふれる丹波の森づくりをめざすきっかけを学びました。現地学習では、淡路市へ出向き、日本最大級の温室をボランティアスタッフの案内で見学し、自然と食の恵みを体感する機会になりました。

○開催期間：5月21日（土）～令和5年1月14日（土）全9回（うち1回現地学習）

○場 所：丹波の森公苑多目的ルーム、丹波篠山市民センター、兵庫県淡路市（現地学習先）

○受講生：62人



第2回講義（公開講座）



現地学習（淡路夢舞台公苑温室あわじグリーン館、淡路景観園芸学校）



オオムラサキ、再びウィーンで世代をつなぐ

(公財)兵庫丹波の森協会は、平成28年(2016年)、ウィーン13区に初めてオオムラサキの越冬幼虫30頭を持参し、オオムラサキによる交流を開始しました。

なかなか飼育は順調に進みませんでしたが、平成31年(2019年)2月に贈った幼虫が同年7月に羽化、初めて産卵し、約200頭の幼虫が孵化・越冬し、オス7頭、メス3頭が羽化しました。丹波産オオムラサキの3世を期待していましたが、残念ながらそれには至りませんでした。

次なる挑戦をウィーン・シェーンブルン動物園は検討していましたが、新型コロナウイルス感染拡大の状況やウクライナ情勢が影響し、当協会と兵庫丹波オオムラサキの会は、幼虫をウィーンへ持参することができず、3月中旬に国際郵便小包により150頭を贈りました。

ウィーン・シェーンブルン動物園からの報告によると、43頭(オス39頭、メス4頭)が羽化し、約50頭の幼虫が生まれ、そのうち6頭が順調に育っているとのことでした。

ウィーンと丹波の森の交流のシンボルであるオオムラサキが、世代をつないでいくことを期待しています。



ウィーンに到着した越冬幼虫



羽化したオオムラサキ

丹波の森ミニガーデン展を開催

美しい地域づくりの実現に向けて、丹波地域の住民の花と緑に関する意識の向上及び花と緑の地域づくり活動を一層推進するため、丹波の森公園などの主要スポットに地域住民の手により制作したミニガーデンを展示し、地域を花や緑で飾る事業を実施しました。

ミニガーデン展も今回で5年目を迎え、丹波地域の高校や市民グループが季節の草花を使って、創意工夫した作品を製作されました。

○開催期間：10月1日（土）～30日（日）

○展示場所：丹波の森公園、丹波年輪の里、丹波並木道中央公園（3ヶ所、6枠）

○参加団体：丹波の森花くらぶ、丹波市商工会女性部有志、南中ふれあい・いきいきサロン、篠山産業高校、篠山東雲高校、氷上高校



丹波年輪の里にて



丹波の森公園にて

2022 丹波の森フェスティバルを開催

10月30日（日）に「お花と緑がお出迎え！丹波の森を楽しもう♪」をテーマに2022 丹波の森フェスティバルを開催しました。

秋らしいさわやかな天候のもと、3年ぶりに飲食コーナーを再開し、約4,800人の来場者がありました。

中庭芝生広場にはウサギやモルモットとふれあえる「森の動物園」が登場し、里山を背景に和やかな雰囲気子ども達に大人気でした。

森のステージは子ども和太鼓教室のパフォーマンスで幕開け、ウクレレやオカリナ、吹奏楽の演奏、フラダンスなどが披露され、会場は盛り上がりしました。

また、兵庫県庁SDGs WEEKの事業として「陸の豊かさを守ろう」を始めとするSDGs 17の目標に向けた取組を進め、来場者に自然の中でゆっくりと森の豊かさを実感していただくことができました。



中庭芝生広場



森のステージ



ピクニックエリア



薪割り体験



コケテラリウムづくり



工作キットの展示

【第5回「心を届ける たんば絵てがみコンクール」開催【丹波年輪の里】

「心を届ける たんば絵てがみコンクール」は、家族や友人、親しい人の顔を思い浮かべながら、暮らしのひとコマ、風景、身近にあるものを描いた「絵てがみ」の全国公募および展示会です。今年、第5回の募集テーマは「希望」でした。

全国40の都道府県から「一般の部」「高校生以下の部」合わせて318名・439点の作品の応募があり、金・銀・銅賞、また「丹波」を題材に描かれたたんば賞などの入賞作品が14点と、入選作品80点が選ばれました。

また、展示会（年輪の里会場）には878人の来場者があり、心あたたまる多数の絵てがみ作品を楽しんでご覧いただき、感動や笑顔を届けることができました。会場では作品の人気投票を行い、「オーディエンス賞」の作品も選ばれました。

○展示期間：2月5日（土）～20日（日）（その後、兵庫県中央労働センター（神戸市）、ゆめタウン丹波店、ウッディタウン市民センター（三田市）で巡回展示）



一般の部金賞「カタリン・カリコ博士へ」三柴 保（岡山県備前市）



高校生以下の部金賞「優しさ」足立 瑞希（兵庫県立柏原高等学校1年）

【森の学校（第15期生）の開校【ささやまの森公園】】

今年度も新型コロナウイルス感染症拡大防止対策に配慮しながら、豊かな自然の中でさまざまな体験活動を通して、たくましく生きる力を育むことを目的に、小学3年生～6年生の16人が普段の生活とは違う里山での自然体験活動を経験しました。

ボランティアスタッフの指導のもと、体験学習を通してたくましさを育むことができました。

○開催期間：6月～令和5年3月



沢歩き体験



ツリーイング体験

【新たなプログラムを展開【ささやまの森公園】】

新たな体験プログラムの取組として「木製のカトラリーを作ろう」「多肉植物の寄せ植え」「ツリーイング～木登り体験～」「みつろうラップを作ろう」「マイ箸を作ろう」「親子で薪割り体験」「マイスツールを作ろう」「ダッチオーブン料理をしよう」や夏の特別企画（7月～9月）第1・第3日曜は木工クラフト、第2・第4日曜はウッドバーニング、秋の特別企画（10月）みつろうラップ作り・テラリウム作りなどを展開しそれぞれ好評を得ました。

○開催期間：1月～12月



親子で薪割り体験



みつろうラップ作り

🔗 トライやる・ウィークの受け入れ【ささやまの森公園】

ささやまの森公園では、「職場体験を通して地域について学び、生きる力を育む」ことを目的に丹波篠山地域の中学2年生による「トライやる・ウィーク」を受け入れています。

今年度は6月7日（火）から5日間、篠山東中学校から2年生7名が来園し、散策路の点検、駐車禁止看板作り、缶バッジ作りなどの体験をしました。



散策路の点検



駐車禁止看板作り

🔗 兵庫県立篠山東雲高等学校の授業「里山文化」【ささやまの森公園】

「里山と人々の生活から生まれた多くの文化を学び、自然や資源、生きていく環境、農業との関わりについて考える」選択授業「里山文化」について、連携協力できました。

○ 開催期間：4月～令和5年1月



間伐体験



藍染め体験

生活創造活動への支援

多様なライフスタイルの創造を支援するため、地域・団体活動の支援や生涯学習の場の提供、くらしの安全安心の推進、明日を担う丹波っ子の育成など生活創造活動への支援を行いました。

生活創造活動グループのイベント等を支援

丹波地域で活動するグループや団体が丹波の森公園を利用して行うイベントを支援しています。

今年はハンドメイド教室や小籠包づくりなど17件の幅広いイベントが開催され、多くの参加者が体験し、グループの活動を知る機会となりました。

中でも11月5日(土)に開催した「石窯で焼くおいしいピザづくり」は、一般の方が当苑にあるピザ窯を利用されるのは初めてで、薪で焼く本格的なピザに参加者は大喜びでした。



ピザづくり



丹波の森公園のピザ窯で焼くピザ

「消費生活にゅーす」の発行

丹波消費者センターでは、丹波地域の住民の消費者力をあげ、消費者トラブルをなくすため、6月、9月、12月、3月の年に4回、消費生活情報板「消費生活にゅーす」を発行しています。

また、地域住民等を対象として消費生活出前講座を実施しており、申込を随時受け付けています。



出前講座

兵庫県地域高齢者大学

「丹波OB大学・丹波OB大学大学院」の受講生らが学びと交流を深める！

兵庫県地域高齢者大学「丹波OB大学・丹波OB大学大学院」は、3月2日（水）に丹波OB大学29名、丹波OB大学・大学院4名の卒業生を送り出し、4月20日（水）の開講式には、新たに新入生を迎え入れ、丹波OB大学計112名、丹波OB大学大学院計38名の受講生が、学習や交流を通じた生きがいがづくり、地域活動の実践等に元気に取り組まれています。



特別講座



運動会



看護学生との交流



学外研修

📺 講座「丹波学」

「丹波につながる歴史再発見！～悠遠なる丹波史と伝統文化から学ぶ丹波の魅力～」をテーマに開講

講座丹波学は、「丹波につながる歴史再発見！～悠遠なる丹波史と伝統文化から学ぶ丹波の魅力～」をテーマとして開講しました。春日局、承久の乱と丹波との関わりなど全5回の講座を実施し、丹波地域の魅力の再発見につながる学習の機会を提供することができました。

○開講日：テーマ：講師 ※時間は13：30～15：00

- ① 8月27日（土）「春日局と丹波」市立枚方宿鍵屋資料館・学芸員 片山 正彦 氏
- ② 9月17日（土）「承久の乱と丹波」花園大学 准教授 生駒 孝臣 氏
- ③ 10月1日（土）「丹波の土豪・酒井氏の歴史」（株）歴史と文化の研究所・代表取締役 渡邊 大門 氏
- ④ 11月12日（土）「幕末政治史と丹波諸侯－京都火消・禁裏守衛・攘夷－」京都女子大学非常勤講師 中村 武生 氏
- ⑤ 12月10日（土）「丹波猿樂とその時代」宇治市源氏物語ミュージアム館長 家塚 智子 氏

○場 所：丹波の森公苑多目的ルーム

○受講生：124人



第2回 講座「丹波学」

トライやる・ウィーク、インターンシップの受入

丹波の森公苑では6月に丹波地域の中学生による就業体験事業「トライやる・ウィーク」で柏原中学校から3名、春日中学校から1名を受け入れました。

また、11月には高校生による就業体験事業「インターンシップ」で篠山産業高校から1名を受け入れました。

里山整備や施設環境整備、パソコンを使ったポスターづくりやフェイスブック・Instagramによる情報発信等の就業体験の場を提供するとともに、丹波の森公苑をよりよく知ってもらうことができました。

○受入期間：6月7日（火）～9日（木） トライやる・ウィーク

11月8日（火）～11日（金） インターンシップ



ガーデンテーブルのペンキ塗り（トライやる・ウィーク）



樹木の伐倒、枝打ち体験（インターンシップ）

丹波の森子どもミュージカル体験塾を開講

丹波の森子どもミュージカル体験塾は、丹波地域等の小・中学生、高校生 49 名の子どもたちが、7 月 24 日（日）から 10 月 15 日（土）までに計 16 回、劇団ウエスト（大阪府豊中市）の劇団員から歌やダンスのレッスン指導を受けました。

10 月 16 日（日）の発表公演は、塾生 49 名のうち 46 名が出演し、レッスンの成果を十分に発揮し、元気いっぱいのミュージカルで多くの来場者に感動を届けました。

○公演日：10 月 16 日（日）

2 回公演（1 回目 10 時 30 分開演、2 回目 13 時 30 分開演）

○場 所：丹波市立ライフピアいちじま大ホール

○出 演：丹波の森子どもミュージカル体験塾生（46 人）、劇団ウエストの劇団員

○演 目：スモーキーバレエ

○来場者：660 人（2 回公演の合計）



発表公演

芸術文化の振興

人と人、人と自然のふれあいの中から生まれた文化を大切にする心を醸成するとともに、舞台芸術鑑賞機会の提供や芸術文化活動の振興、芸術文化団体活動の支援など芸術文化の振興を図りました。

【継】「丹波の森国際音楽祭シューベルティアードたんば2022」を開催

「丹波の森国際音楽祭シューベルティアードたんば」は、今年で28回目を迎えました。今年は「シューベルト！君こそ我が憩い」をテーマにオープニング・サロンコンサート、街角コンサート、ガラ・コンサートを開催しました。フランツ（シンボルアーティスト）にはオーボエ奏者の中島友美さんを招き、オーボエの牧歌的で美しい音色を多くの人が楽しみました。そして、年間を通して、ふるさと音楽ひろば（小学校）、キン・コン・カン・コンサート（中学校、高等学校）を実施し、丹波地域の子どもたちに本物の音楽に触れる機会を提供しました。また、今年、新たに中学校・高等学校の吹奏楽部を対象にした出前講座を開催しました。

○オープニング・サロンコンサート

開催日：9月11日（日）

場 所：お菓子の里丹波ミオール館

出 演：中島友美（オーボエ、オーボエ・ダモーレ、
イングリッシュホルン）、真壁泰江（ピアノ）、
畑儀文（テノール）

来場者：118人



オープニング・サロンコンサート

○ガラ・コンサート

開催日：11月19日（土）

場 所：丹波篠山市立田園交響ホール

出 演：中島友美（オーボエ）、藤井敬吾（ギター）、
安永早絵子（パーカッション）、城村奈都子（ピアノ）、
畑儀文（テノール）

来場者：202人



ガラ・コンサート

○街角コンサート

丹波各地6会場において、地域の特徴を生かしたコンサートを開催しました。

○ふるさと音楽ひろば

丹波地域の小学校10校にプロの音楽家を派遣し、演奏会とワークショップを開催しました。

○キン・コン・カン・コンサート

丹波地域の高等学校1校にプロの音楽家を派遣し、演奏会を開催しました。

○吹奏楽部のための出前講座

丹波市吹奏楽連盟の中・高校生を対象にした出前講座を実施しました。

**第 34 回「丹波の森ウッドクラフト展（木のおもちゃ大賞展）」を開催【丹波年輪の里】
～ジュニアの部では大森春菜さん（丹波市立南小学校 6 年）が 4 連覇～**

《集合！遊(あそび)・戯(たわむれ)・木のぬくもり》を趣旨とした、遊び心あふれる木工作品の全国公募および展示会です。

一般の部では、全国から 60 名・67 点、ジュニアの部では 14 校から 75 点の作品の応募があり、グランプリ（文部科学大臣賞）以下各部 11 点～12 点の入賞作品が選ばれました。

展示会（年輪の里会場）には、2,366 名の来場者があり、木のぬくもりと創造性あふれる作品をご覧いただきました。

また、ジュニアの部では、丹波市立南小学校 6 年・大森春菜さんが 4 連覇となるグランプリを受賞され、一般の部・グランプリの大森恵さんと親子でダブル受賞となりました。

（一般の部）

○公募期間：7 月 1 日（金）～ 8 月 14 日（土）

○展示期間：9 月 10 日（土）～ 25 日（日）

（ジュニアの部）

○公募期間：8 月 2 日（土）～ 9 月 15 日（木）

○展示期間：10 月 15 日（土）～ 30 日（日）



ジュニアの部グランプリ「時代すごろく」大森春菜さん（丹波市立南小 6 年） 一般の部グランプリ 「こづけばピピピッ!!」大森恵さん（丹波市）

🔗 地域文化活動支援事業

(夏休み子ども和太鼓教室・夏休み子ども池坊いけばな教室)を開催

夏休み期間中に丹波文化団体協議会主催による地域文化活動支援事業（夏休み子ども和太鼓教室・夏休み子ども池坊いけばな教室）を各5回開催しました。今年も多くの参加申込があり、抽選の結果、和太鼓教室は6名、池坊いけばな教室は50名が受講し、楽しく伝統文化を体験しました。また、丹波の森フェスティバルや丹波地域文化活動交流会において、体験した成果を発表しました。

和太鼓教室

○開催期間：7月29日（金）～8月23日（火）

池坊いけばな教室

○開催期間：7月24日（日）～8月25日（木）



夏休み子ども和太鼓教室



夏休み子ども池坊いけばな教室

🔗 丹波地域文化フェスティバルを開催

日本の伝統文化への理解や関心を深めるため、子どもも大人も家族一緒に様々な伝統文化を体験し、鑑賞できるイベントとして丹波地域文化フェスティバルを開催しました。

参加者らが様々な伝統文化を体験できるように、生け花、書道、茶道などの体験コーナーを設置するとともに、会場内にステージを設け、和太鼓や雅楽などの鑑賞会を開催しました。

○開催日：8月5日（金）12時00分～16時00分

○場 所：丹波の森公苑多目的ルーム他

○体験コーナー：生け花、書道、茶道、古典音楽など13コーナー

○ステージ：和太鼓、雅楽、狂言など6団体

○来場者：247人



ステージ（雅楽塾）



体験コーナー

継 ふるさとの心をうたう丹波音楽祭—第49回丹波合唱祭—を開催

丹波地域において活動している合唱グループが、日頃の活動の成果を発表し、音楽を通じた交流を深めることを目的に、第49回丹波合唱祭を開催しました。今年は合唱グループ19団体が出演し、ホールに美しいコーラスが響き渡りました。

- 開催日：10月23日（日）
- 場 所：丹波篠山市立田園交響ホール
- 出演者：丹波地域の合唱グループ計19団体
- 来場者：490人



新 伝統文化鑑賞会の開催

丹波文化団体協議会の会員が日頃の活動の成果を披露するとともに、丹波地域の方々に伝統文化の素晴らしさを発信するため、伝統文化鑑賞会を開催しました。

- 日 時：1月22日（土）
- 会 場：丹波の森公苑ホール
- 内 容：日本舞踊・新舞踊・邦楽・郷土民踊・日本民謡等
- 来 場 者：230人



利用者の状況 (令和4年1月～11月末現在)

【丹波の森公苑】	97,039 人
【丹波年輪の里】	74,250 人
【ささやまの森公園】	21,129 人
【丹波並木道中央公園】	271,910 人

公益財団法人 兵庫丹波の森協会

〒669-3309 兵庫県丹波市柏原町柏原 5600
TEL 0795-73-0933 FAX 0795-72-5164
URL <http://www.tanba-mori.or.jp/koukai>
E-mail mori-kyokai@tanba-mori.or.jp

丹波の森公苑

〒669-3309 兵庫県丹波市柏原町柏原 5600
TEL 0795-72-2127 (代表) FAX 0795-72-5164
URL <http://www.tanba-mori.or.jp/>
E-mail morikoen@hk.sun-ip.or.jp

丹波年輪の里

〒669-3312 兵庫県丹波市柏原町田路 102-3
TEL 0795-73-0725 FAX 0795-73-0727
URL <http://nenrin.org/>
E-mail mail@nenrin.org

ささやまの森公園

〒669-2512 兵庫県丹波篠山市川原八幡谷 511-1
TEL 079-557-0045 FAX 079-557-0201
URL <http://www.sasayamanomori.jp/>
E-mail csr@sasayamanomori.jp

丹波並木道中央公園

〒669-2221 兵庫県丹波篠山市西古佐 90 番地
TEL 079-594-0990 FAX 079-594-0991
URL <http://www.hyogo-park.or.jp/tanba>
E-mail namikimichi@tanba-mori.or.jp